

第6回（通算第25回）子育て講座（子育てについて聖書に聞く会）

2019. 3. 14 子供の家幼稚園

宗教主事 浦上結慈

「互いに愛し合うこと、これがあなたがたの初めから聞いている教えだからです。」

（Iヨハネ3：11）

さてさて、飢肥にやって来て「子育て」について9年間、子育てについてあれこれ考え悩んできました。子どもはそれぞれ親にはない人格を持っているので、親の思いどおりプラモデルのように組み立てることはできません。親や先生、友だちとの一つ一つの出会いの積み重ねの中で、親の思ってもみないような成長を遂げてくれます。

今回が私にとって子育てを考える最後の時になりましたが、今までは、親の視点から子どもをどう見ているかにフォーカスを当て続けてきたことに気づきました。

「一方通行だったじゃないか！」と。

逆に、子どもの視点から親をどう見るかということがあってもいいのではないかと。そこで、祥伝社から出ている『天使のひと言』から、子どもが親に対してどんな思いを持っているかをピックアップしてみました。題して「親への励まし」。

●もう少しだけ生きてみよう（6歳・男）

今からちょうど20年前の話です。二人の子連れで離婚し、体調も悪く職もなく、私には「死」しか見えていなかったんですね。「あなたたちを育てていく自信がない」と叫ぶ私に、長男が泣きながら必死に訴えた言葉です。「お母さん、辛く苦しいのが人生なんだよ。生きていれば一つくらいいいことあるかもしれない。だからもう少しだけ生きてみよう…」。このひと言に支えられて、今日までがんばって生きてきました。その息子も今ではりっぱな社会人。大学の研究室で大好きな植物の研究をしています。（47歳・女）

●お母さん、今幸せ？（8歳・女）

「勉強は今しておかないとダメ。自分自身が将来幸せになるためにやで！」に対して（38歳・女）

●お母さんも早くしなさい！（5歳・男）

朝ごはんも着替えも「早くしなさい」が口ぐせの私ですが、息子に言うわりにはのろくて、いつも登園はギリギリ（39歳・女）

●お母さんは、心の中に賞状があるよ（8歳・女）

娘が読書感想文コンクールで佳作に選ばれ、賞状をもらってきた夜、「真美ちゃんが頑張ったからこんなに立派な賞状もらえたんだね」に（40歳・女）

●私ね、お母さんを見ていると絶対不良なんかにならないよ（14歳・女）

きびしい舅に仕えて苦勞していたころ（45歳・女）

●おとうさんのヒゲは、あたまに生えればいいのにね

私もそう思う（38歳・男）

●自分を信じて決めたらええで、僕はそうしている（9歳・男）

仕事のことで悩んでいるときに（38歳・男）

- ママ、お仕事はすぐには見つからないよ。パパも一生懸命に探すからね（6歳・男）
夫がリストラの対象になって、泣いていたときに（40歳・女）
- お母さん、いっしょにご飯食べよう。僕、朝早起きするから（5歳・男）
仕事が忙しく夕食もいっしょにできない日が続いたときに（41歳・女）
- 3人より4人の方が毎日が楽しいよね、ママ（5歳・男）
生後3か月の下の子どもの育児で、疲れ気味のときに（34歳・女）
- 心まで暖まるね（6歳・女）
夫が毎晩仕事で遅く、イライラしていた。そんなある日の夕食を寄せ鍋べにしたときに（33歳・女）

子どもとの言葉のキャッチボールは、子どもの心に豊かさを与えるだけでなく、親の心にも豊かさを与えてくれます。そして、この時に交わした言葉は何年経っても忘れることなく、老年の頃に思い出してはニコリと笑う、そんな心の糧にもなります。その意味から言えば、私たちは子どもたちに言わなければならない言葉があるのではないのでしょうか。「○○ちゃん、わたしの子に生まれてくれて、ありがとう」。

さて今日は、愛する子どもとどんな言葉のキャッチボールをすることになるか、ワクワクドキドキの一日が始まります。

子育て応援してますよ。

■上記の文章は、3月14日（木）開催の原稿です。有意義な一時を持つことができました。2019年度子育て講座はこれにて終了です。ありがとうございました。